

元気な地域づくり 活動報告会

平成21年12月17日（木）13:30～16:30

横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

事例発表

地 区 瀬谷区 阿久和北部地区

テーマ 「『隣近所の助け合い』から広がる『見守り合い』」

発表者 清水 靖枝 さん（阿久和北部地区社会福祉協議会会長）

清水 今、御紹介に預かりました清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

横浜の一番西でございます瀬谷区でございます。その瀬谷区の中の阿久和北部地区の見守り合いについてお話しをさせていただきたいと思っております。

阿久和北部地区は、ちょうどこの辺ですね。隣が旭区になっています。人口は1万1,000人で、高齢化率21.1パーセント。これは瀬谷の平均値になっております。

そして地域の資源といたしましては、横浜市の長屋門公園、古民家を配した長屋門公園、あるいは、消防署があつたり地域作業所があつたり、保育園、中学校、コミュニティスクール等々がございます。

さて、本題に入らせていただきます。見守りネットワークをどうやって立ち上げたかということでございますが、実は瀬谷区役所から地域に様々な御提案があります。例えば平成17年には、先ほど名和田先生のお話にもありました地域福祉計画、これの地区別計画を立てるよということ。そして更に防災に関しては、要援護者の把握等をするため、自治会ごとに構築する「まちの防災知恵袋」と称した防災組織をつくること。そして昨年からは、「気づきのキャッチ・見守りのリレー」というような事業が提案されました。この気づきのキャッチ・見守りのリレーは、一人暮らしの定期訪問事業を瀬谷区では見直ししようということで、見直しの結果、この気づきのキャッチ・見守りのリレー事業が新しく生まれてきたわけです。こうした3つの様々な事業が、各地域に提案されております。

阿久和北部は、この3つを見たときに、これって元を正すと、みんな隣近所の見守りが主になってるんじゃないか、これをちゃんとしておけば、これらの事業もうまく展開できるのではないかということになりました。

平成17年の地域福祉計画においては、まずは見守りのネットワーク前に、団塊の世代の人たちが集まって、そして地域に貢献していただくための機会をつくらうということで、おやじの広場を立ち上げました。これ18年に立ち上げました。これがおやじの広場のメンバーなんですが、この方々が、この見守りの様々な事業に非常に大きな力を発揮していただいております。

それから、先ほども出ておりましたように、誰もが集まれるサロンづくりをしましょうということで、喫茶団らんも立ち上がりました。

さて、こうして地域福祉計画を推進しながら防災の件、そして昨年提案された気づきのキャッチ・見守りのリレー、これらを一緒にしたものと、何かできないだろうかということで立ち上がったのが、この阿久和北部の見守りネットワーク実行委員会でございます。

ここに「阿久和北部地区社協」と書いてありますが、実は阿久和北部は地区社協と連合とがとてもいい関係で、常に一体となって色々な事業展開をしております。月に1回の会議も、この地区社協と連合の皆さんとが一緒になって会議を開いております。そんな関係で阿久和北部の見守りネットワーク実行委員会を立ち上げるときには、すべての自治会、そして民生委員、青少年指導員、体育指導委員、保護司、保健活動推進員、その他環境事業推進員とか家庭防災員、あるいは、地域の消防団等々すべての団体、そして更に配食のボランティア、地域のデイサービス、それから先ほど言った、おやし広場等々にメンバーになっていただいて、実行委員会を立ち上げました。

さらに区の福祉保健計画の地区支援チーム、これを含めた区役所、ケアプラザ、区社協が後押しをしてくれているというような格好で、ネットワーク実現のために実行委員会が立ち上がったわけでございます。

さて、この実行委員会ですら最初に何をしたらいいのか、皆さんで一生懸命話し合いを重ねました。その結果、阿久和北部地区の方々、一体この阿久和北部をどう考えてらっしゃるのか、どう思っているのか、更に、近所付き合いがどの程度されてるのか、「まずそれを知りたいね」という話になりました。

そこで、「じゃ、それらを設問にした、全世帯対象のアンケートを実施しようじゃないか」ということになりました。これが20年の7月でございます。

設問については、実行委員があれやこれやと色々案を出して作りました。そしていよいよアンケート実施でございます。自治会長さんを通して、すべての世帯に配りました。配布世帯数が3,581、そしてなんと回収が2,782と、この種のアンケートではものすごい高い回収率でございます。78パーセント。

これを回収いたしましたけども、集計するのにえらい手間がかかりました。しかしながら、自治会長さんはじめ、先ほどのおやしの広場の方々にお手伝いいただいて集計を終えることになりました。そして分析につきましては、区の支援チームの皆さん方にお手伝い頂き、いよいよもってアンケートの集計が終わりました。

さて、「集計後どうしましょうか」ということでもございましたけど、まずこの集計結果を地域に目に見える形でお返ししたいとなりました。

更に今後見守りを続けていくためには、実行委員会のメンバーの皆さん方がまず実状を知ることが必要だとなりました。日ごろ情報交換をしながら、情報は共有してるつもりではいしましたが、「もう一度、各地域内の様々な団体とかグループとか、それをお互いを知る機会を設けようじゃないか」ということで、「それならばそういう団体、地域の人々が一堂に集まる機会を持ちましょう」ということになりました。

そして催したのが「見守り合いの集い」でございました。昨年1回目、そして今年が2

回目になります。近くの前中学校という中学校の体育館を借りて実施することにいたしました。

で、先ほどのアンケートでございますが、このように目に見える形で皆さん方にパネルとして御報告いたしました。もちろん、自治会ごとにまとめたアンケート結果は各自治会にお戻しして、これからの見守りネットワークを構築していくための資料としていただきました。

そしていよいよ本番ですが、その準備、あるいは、当日の運営に至るまで、すべて実行委員、これは代表だけじゃありません、すべての委員さんですから、そうですね、総勢100人を超える委員さんたちによって、この見守りの集いを開催することができました。

そしてこのパネルでございます。先ほどお話ししたように、各種団体、あるいは、自治会、各活動グループのパネルを展示いたしました。これは先ほど来お話ししていますように、各団体同士の情報を共有すると同時に、地域の人々が、地域の人一人一人が生活していくときに、こんなに多くの様々な関わり合いの中で生活をしているんだということを再認識していただきたいということもございました。

実は20年度は31団体分、つまり31枚のパネルでございました。今年はなんと46団体、大分増えました。

今年はこちらに書いてありますように、認知症高齢者のグループホームや介護ボランティア、障がい者のボランティアグループ、そして地区内の小中学校、交番・警察署からもパネルを頂きました。

そして更にこの集いは、中学生の方々にも、やがて将来を背負って立つ、地域の要となる中学生にも参加していただいて、様々な分野でボランティアをやっていただきました。また、集いを持つ前に実行委員会で見守りという観点から、障がい者の方々の理解を深める研修会も催して、この集いに当たりました。

参加した方からは、「こんなに多くの方々地域で活動しているのか。本当に感動しました」というようなお声も頂いております。

見守りは高齢者の方もさることながら、障がい者、そして子育て中の方、様々な方を見守っていかなくてはいけないということでございまして、これからの阿久和北部地区の目指す姿というのは、ここに書いてありますように、隣近所の助け合いからお互いの見守り合いに広がっていくことを願っております。

それにはまず各自治会で見守り合いのシステムを構築していくということで、今この連合で一番大きい自治会、約900世帯の自治会であります谷戸自治会が既に先駆的に、見守り合いのシステムで進んでおりますので、この谷戸自治会の取組を参考に各自治会ごとに、見守り合いシステムを構築しているところでございます。

なお地区支援チーム、ここに書いてありますように、区役所、区社協、ケアプラザ、これらの皆さん方にも後押しをお願いしながら今、一生懸命、各自治会とも構築のために色々施策を考えております。恐らく来年の見守り合いの集いには、各自治会ごとの見守り合いシステムがそれぞれ報告されるのではないかなと思っております。

さて、それでは谷戸自治会の見守り体制はどういうことなの。先ほどのかちだ地区の方と似てるんですが、実はまず災害時の避難のことから、それを切り口にして入り込みまし

た。谷戸自治会の場合はお隣場カードというものを作りました。まず自治会、900世帯を10軒一組に編成替えをいたしました。なぜ10軒一組かという、10軒ですと、その中の家族構成、様々なことが何となく分かるんですね。ですから、あえてプライバシーだとか何とか言わなくてもお互い同士で分かり合える戸数というのが10軒でございました。

そこで10軒ごとに「お隣場」というシステムを作りまして、そこでこのようなカードをお出しいただきます。最初は避難のため、災害時の避難支援のためのカードということでございましたけど、今ではこれが日常の見守りのためのカードにも変わっております。

例えば、10軒のお家の中で、一人暮らしの方が何か調子が悪そうということにどなたかが気がついた場合、リーダーさんを中心にその10軒の方々皆さんで「どうしようか」ということで考えます。その10軒でどうにもならない場合は民生委員に連絡が来ることになっております。民生委員はそれぞれ、例えば一人暮らしの方の情報等を持っておりますので、民生委員がその話合いの中に入り、しかるべき所につないでいくというようなシステムになっております。

「お助け袋」というのは、小さいお子さんがいたり、障がい者の方だったり、あるいは高齢者の方など、災害に遭ったときに、どちらかという閉じこめられそうな方々にこの「お助け袋」というのをお渡ししております。この中にお水だとか氷砂糖だとかが入っております。

こうした形で、各自治会がそれなりのやり方で見守り合いのシステムを構築していく。各自治会で見守り合いができれば、それがやがて阿久和北部連合全体に広がり、見守り合いの大きな大きな輪になっていくのではないかなと、そのように思っております。

なお、谷戸自治会は全部の世帯に毎年、こうしたチラシを配っております。これはほんの抜粋ですけども、「人は一人では生きられません。お互いに助け、助けられ、時には迷惑を掛け合い、お互い様の中で生きていくんだと思います。基本はできる限り自分のことは自分で。その上でお互い様です。みんなで心安らぐ地域を目指しましょう。それぞれの組の見守り合いがつながって、住み続けたい、住み続けてよかったと言える谷戸の地域となり、子供にとってのふるさととなるはずです」

こんな形で毎年これをお配りして、皆さんに見守り合いの意識を高めていただくような形を取っております。このようなことで今、阿久和北部は着々と見守り合いのシステムの構築に向けて動いています。この中で防災のこともすべて含めながらやっていきたいなど、思っております。

時間になりました。どうもありがとうございました。